

二十歳のころ

B班 一ノ瀬・伊藤・濱村・林

《研究動機》

私たちはインタビューをするにあたって、起業という私たちの進路の選択肢になかった道に進まれている方のお話を伺い、起業されている方の考え方を知りたいと思い、加藤ゼミのOBであり起業をされている中村星羅様にインタビューをさせていただくことにした。私たちがこれから活動していく加藤ゼミのOBである中村様にお話を伺うことで、今の自分たちと照らし合わせ、これからの学生生活の行動指針にしていきたい。

《取材させていただいた方》

宅配買取専門 reMOVE(リムーブ)代表 中村星羅様

《中村様について》

加藤ゼミ3期生。大学卒業後はJA共済に約6年間勤める。JA共済を退職後、起業。現在は長野県で宅配買取専門 reMOVEの代表として活躍され、スキンケア商品の開発にも力を入れられている。

《企業概要》

宅配買取専門 reMOVE

宅配買取と専門性に特化した査定・買取を行う。好きな時間に活用できるという利便性と特定のブランドを強みとすることでお客様からの信頼を得ている。

《インタビューの内容》

・ 起業した理由

多くの人たちが会社に入社したり公務員として働いたりするのと同じ感覚で、そのような選択肢の中の一つに起業があったため、起業を特別なことだとは思っていない。入社や起業は手段にすぎず、自分の考えややりたいことを体現したいと思い起業した。

・ 苦労をどのようにして乗り越えてきたか

上手くいなくても修正することが大切。あらかじめ失敗することを視野に入れて始める。失敗した経験値を他のことに活かすことを考える。踏み外しても、踏み外さない場所を見つける。上手くいかなかったことを引きずることもあるが、自分なりの切り替えができるようになることは大切。苦しいことや楽しくないことがあっても、思い描いていたことが現実になるときの快感がモチベーションの維持につながる。

・ 20歳の頃の目標と現在の目標

【20歳の頃の目標】

ゼロから生み出すこと。頭の中を体現すること。

【現在の目標】

地方ということを活かし、地方で新しい形の組織を作ること。女性のパートが多いため、単価を払ったり在宅ワークを取り入れたりしたこともあったが上手くいかなかったのもう一度チャレンジしたい。また、個人の目標としては何かにチャレンジしたい人の背中を押せるような、人への投資をできるようになりたい。

・ ターニングポイントはいつか

23歳の時。会社一年目で上司と揉めて左遷された。“実力のない言葉には責任がない”ということを感じ、2,3年目は仕事に集中した。その経験から、自分の意見を通しやすい環境づくりや人とコミュニケーションをとることの大切さに気付いた。

・学生の間にしておいた方がいいこと

- ① 生産性を考える（何事もとにかくチャレンジ）
- ② 人と会うことを大切に（五感を共有することを大切に）
- ③ 自分で決意する（自分で決断することで責任を持つ）
- ④ 誰にでもできることを誰よりも早く誰よりも多くやる
- ⑤ 多角的な視点を持つ（多くの媒体や様々な年代から情報収集）

《最後に》

中村様からお話を伺い今の自分たちと照らし合わせて、学生の時間を有意義に使うこと、自分を知ること、とにかくすぐ行動すること、五感を研ぎ澄ましコミュニケーションを自分からとるようにすることの大切さを学びました。これから私たちがゼミでの活動や学生生活でどう成長していきたいのかを考え、自分で決意し、失敗を恐れずに自分から行動に移せるような主体的な学生生活を送っていこうと思いました。

最後になりましたが、この度お忙しい中快くインタビューを引き受けてくださった中村様に心より感謝申し上げます。